

# 会 議 録

## 1 会議名

令和5年度 第4回上越市自立支援協議会

## 2 議題（すべて公開）

(1) 上越市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画（案）について

(2) その他

## 3 開催日時

令和5年11月28日（火） 午後2時から午後3時まで

## 4 開催場所

市役所木田第一庁舎 401 会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：平原委員、江部委員、樺澤委員、小林委員、山口委員、片桐委員（副会長）、植木委員、重野委員、阿部委員、芋川委員、池亀委員、吉田委員、松原委員、大久保委員（会長）、富井委員、西山委員

・事務局：小林健康福祉部長、  
すこやかなくらし包括支援センター 岩崎次長  
こども発達支援センター 福田副センター長  
福祉課 丸田課長、橘副課長、八木副課長、小松係長、上田主任

## 8 発言の内容 (要旨)

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 議題

ア 議題(1) 上越市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画(案)について

### 【事務局(小松係長)】

- ・上越市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画(案)、素案に対する委員意見と対応について説明

### 【片桐委員】

- ・色んな方の意見が取り入れられて、締まった計画になったと思う。
- ・特に自立支援協議会の中に当事者部会を設置し、当事者の意見をしっかりと聴くということを反映したところが、すごく良いと思う。

### 【松原委員】

- ・計画案の17ページ、就労の支援と定着の促進の課題に「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が必要とあるが、逆にもっと働きたいという当事者もいるので、必ずしも勤務時間を減らすということだけが配慮ではない。
- ・計画案の19ページ、就労移行支援事業等を通じて一般就労する者のうち就労定着支援事業を利用した者の割合の実績が3.75割となっているが、一般就労へ移行したほとんどの人が就労定着支援事業を使っていると思っていた。
- ・何か使い難さみたいなものがあるのか。

### 【樺澤委員】

- ・就労定着支援事業は一般就労へ移行した人すべてが利用するものではなく、就労を継続する上で、生活面などに課題がある人が利用するサービスなので実績のような数値になっているのだと思う。

### 【松原委員】

- ・就労定着支援事業を積極的に活用することで、就労定着率の数値も上がるのではないかと思うので、極力使うようにご指導いただきたい。
- ・計画案の37ページ、上越ワーキングネットワークへの支援について、作業工賃を向上させるということが一番の目標だと思うが、結果が出ていないのが実

情だと思う。

- ・工賃を上げるには利益を出すという観点が必要だが、上越ワーキングネットワークに携わっているのは非営利の法人の方々であり、利益を出すという観点においては限界があり、営利企業、例えば経営コンサルタントなどの知恵を借りて改革していく時期ではないかと感じている。
- ・市としても適切な支援をしていくとしているが、支援内容についても今まで通りではなく、新たな視点での支援を期待したい。
- ・最後にもう1点、施設入所者数について、国は5%減を指針として、地域への移行を推進しており、全国手をつなぐ育成会連合会としても国と同じ方針は出ている。
- ・しかし、前回も話した通り、上越市内の手をつなぐ育成会で実施した調査では、生活介護の利用者の8割ぐらひは最終的に施設に入りたいと答えており、環境が整っていない中で地域への移行を進めるのはいかなものかという思いがある。
- ・そんな中で、新潟市では入所施設が新設されることとなった。
- ・上越においてもグループホームの家賃が高く、障害年金2級だけでは暮らすことが難しくなっている中で、親亡き後も暮らしていけるという安心感がある入所施設のニーズは高い。
- ・このことについて、県はどのように考えているのか。

**【富井委員】**

- ・県としては、障害者に関する様々な施策を市町村が主体となって進めていけるよう支援をしたり、圏域における地域課題などの対策に取り組んでいるところである。

**【松原委員】**

- ・施設入所者数を減らすということであれば、それなりの環境が必要であり、広域的な話になってくるので、市だけでなく県としても考えていただけたらと思う。

**【山口委員】**

- ・今年から上越ワーキングネットワークの代表をしている。
- ・昨年度までの工賃の実績をみると、全国平均よりも低い状況であり、課題ということは重々承知している。

- ・品質の良いものを作ってもなかなか買ってもらえない、興味を持ってもらうようにパッケージをどうするか、販路をどうするか、配達がなかなかできないなど、どの事業所も共通の課題を持っている。
- ・また、上越ワーキングネットワークは、一事業所では対応できない地域のニーズに対して、複数の事業所がタッグを組んで対応するという共同受注の考え方から発足したが、仕事の依頼が来ても、施設外に利用者を連れていく人手が足りないという課題もみんな共通である。
- ・そういった課題を上越ワーキングネットワークの中だけで解決するのは難しいので、どういった取組が必要なのか福祉課とも相談していきたい。
- ・営利企業という話もあったが、先日、福祉課から案内があり、上越ワーキングネットワークの副代表が、一般企業が集まるマッチング商談会を見学してきた。
- ・そういったところに顔を出すことで、仕事を受けるチャンスにも繋がるし、一般企業からヒントを得て、自分たちの業務に活かすきっかけにもなればと思う。
- ・また、一般就労に繋げる支援にも良い影響があると思うので、福祉業界だけにとどまらないネットワークづくりが必要なのではないかと考えている。

#### 【西山委員】

- ・素案に対する委員意見と対応の意見ナンバー16番で、福祉避難所には発電機や蓄電池が配備されているとのことだが、これらはどういった使用目的を想定して配備されているのか。

#### 【事務局（上田）】

- ・ペースメーカーなど日常的に電源が必要な人たちの使用を想定している。
- ・そういった電源が必要な人が避難することとなっている福祉避難所を中心に発電機等が配備されている。

#### 【西山委員】

- ・意見ナンバー16番の趣旨としては、医療的ケアが必要な人が広域の被災によりやむを得ず福祉避難所に避難せざるを得ないという状況となったとき、事前に把握しているペースメーカー等の必要な人だけでなく、医療的ケアの必要な人の呼吸器や酸素濃縮器など命をつなぐツールの電源についても考えてもらいたく意見をしたところである。

- ・また、意見ナンバー21 番の③は保護者の就労という視点を入れていただきたく意見を提出したものになる。
- ・昨年の自立支援協議会の重心・医療的ケア部会で行ったアンケートによると約 6 割の方が就業が難しいという状況にあり、そういった状況を踏まえ、市の施策の根幹となる今回の計画に保護者の就労が継続できるような施策を盛り込むことを改めて強く求めたい。
- ・保育園等に看護師を配置し、医療的ケアが必要な児童の受入体制を整えているとのことだが、看護師も勤務時間の長短があり、通常の保育時間で支給決定されていても、看護師が短時間勤務であれば、それに合わせて短時間の利用にせざるを得ないという状況が実際にある。
- ・看護師の配置時間を延長するなどの対応をしているとのことだが、実際にそうした対応をしているのか。

**【事務局（八木副課長）】**

- ・福祉避難所の電源について担当課に確認したところ、大部分の福祉避難所において、発電機等が導入されている。ただし、施設の都合によりなかなか導入できない施設もあることはご理解いただきたい。
- ・どの福祉避難所に避難するかは予め決められているが、いざ災害が起こった時、電源が必要な人がどうしても指定された医療機関に行けない場合は、市で電源の置いてある福祉避難所を案内するようにしているので、医療的ケアが必要な人についても同じように対応できたらと思う。
- ・医療的ケアが必要な児童の保護者の就労支援としては、保育園等に看護師を配置するなど受入体制を整えている。
- ・例えば、子どもの体調等により長時間の受入が難しいという話もあるかもしれないが、保護者と話し合いながら、場合によっては看護師の配置時間を延長するなどの対応をしていると聞いている。

**【松原委員】**

- ・福祉避難所に避難される方の特性などの情報が事前にわかっていると、受け入れる福祉避難所側も対応しやすいという話を過去に聞いたことがあるが、受入側との情報のやり取りは今どうなっているのか。

**【事務局（八木副課長）】**

- ・福祉避難所とマッチングする際に、障害福祉サービスの利用者であれば調査

票など本人の状況がわかるものを情報提供している。

- ・ただし、福祉避難所となっている施設の職員が、すべて対応するというのはなかなか難しいので、必ず保護者の方からも同行してもらい、一緒に支援していただくようにしている。

#### 【片桐委員】

- ・計画の話ではないが、日中サービス支援型グループホームが市内に創設されるが、年に1回、自立支援協議会で報告することが義務付けられているので、市から伝えていただければと思う。
- ・また、提案だが、計画案の33ページ、自立支援協議会のイメージ図について、当事者部会で出た意見が、専門部会を通して運営会議と全体会に反映されるという形になっているが、やはり当事者が主役であってほしいという思いがあるので、当事者から全体会や運営会議にも参加してもらうなど、意見をダイレクトに聴くという形に変更しても良いのではないかと。

#### 【事務局（八木副課長）】

- ・日中サービス支援型グループホームの件について、承知した。
- ・自立支援協議会のイメージについても、検討する。

#### 【松原委員】

- ・今ほどの日中サービス支援型グループホームについては、既に内覧会も始まり、手をつなぐ育成会の会員にも入居を希望する人がいるので、何かあれば情報共有していきたい。

### イ 議題(2) その他

#### 【事務局（上田主任）】

- ・計画策定に向けた今後のスケジュールについて説明

## 9 問合せ先

健康福祉部福祉課 TEL：025-520-5694

E-mail：fukusi@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。